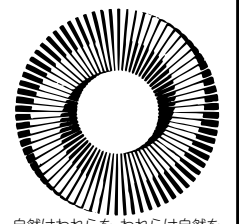


京都御苑 ニュース



自然はわれらを われらは自然を
絶えまない人と自然の
連携を象徴するメ
ビウスの連環。これ
が息の長い活動の
待たれる自然保護の
シンボルマークに表
現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 木村博司
編集
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を
使用しています。

冬

選鳥観鳥 (よりどりみどり)

～種の多様性と種のなかの個性～

河合 嗣生



ハシブトガラスなんかに負けてられない (餌を取り合うアオサギ)

今年も冬の季節となりました。秋まで元気だった昆虫たちも冬越しに入り、夏鳥たちは南へと旅立ち、北国からは沢山の冬鳥たちがやってきました。そんな生きものたちの変化を感じ、空を見るとトビが舞いカラスが飛ぶまさに、童謡やみんなのうたの風景を思い起こさせてくれます。

さて皆さんのご存知の童謡には沢山の生きものが登場します。大きなクジラから始まり象、熊、犬、カラス、カッコウ、カエル、魚、黄金虫、赤とんぼ、蝶、どじょう、めだか、お猿のアイアイもあります。その多くは、私たちに身近な自然環境のなかに生息する動物、そして原風景のなかに息づく動物たちの存在です。歌の中にはそれぞれの個性もうまく表現されています。

◇七つの子
童謡で上位に入るのが「七つの子」作・野口雨情。これは皆さんご存知、カラスが主人公です。主題の「七つの子」とは、「七羽のヒナ」か「七歳の子」どちらの意味でしょう。その答えを探ってみましょう。カラスには通常七羽ものヒナは生ま

れません。せいぜい多くても四羽程度です。ましてや七歳の子が巢にいることは不自然です。実は野口雨情の息子がこの歌のモデルであり、その息子が七歳のころに作られた歌であると言われています。また、七歳という年齢は彼自身が母親と別れた年齢と合致することから、「七つ」という数字に大きな意味を持たせたようです。そしてなぜ「カラス」なのか。彼がこの詩を書いた時は、彼が林業に従事していた折の作品ではないかと言われています。つまりこの歌



やっと拾ったビスケット、どこに隠そうか？ (思案中のハシボソガラス)



は、彼がフィールドでカラスの持つ愛情の豊かさを発見し、自らの想いと重ね合わせたのでしようね。カラスの中に個性を見いだした雨情はすぐれた観察者だったと思います。

◇アオサギの若鳥
九條池に今秋、アオ

目を観察するジョウビタキ (こちらをウキウキ)

サギの若鳥が毎日やってきました。アオサギは留鳥ですから一年を通して水辺で見ることが出来ます。通常は意外に臆病な鳥です。しかしこの若鳥は人を怖がりません。それどころか来園者のそばまでやってきます。本来の食性は、魚類、両生類、小形は乳類、甲殻類、昆虫などの動物食ですが、しかし若鳥が発見した空腹を簡単に満たす方法は人が与えてくれるパンだったのです。新しい習慣は若者から始まると言いますが、まさに鳥の世界でもそのような鳥の世界でもそのような若鳥が成鳥となった後の人間への依存習慣や個性など、どのような変化があるのか興味深くあります。しかしながら野生動物が持っている自分で食べ物を探し生きて行くという本能と生命力を阻害するなどの問題も心配されます。やはり野生動物への餌付けは慎むべきです。

◇種と個
生きものを観る時に大切なことは、「種」を見ることと同時に、「個」を見ることです。

「秋のきのこ」も、次に「冬のきのこ」へと様変わりして行き

カサ、カサ、カサと落ち葉を踏みしめながら、小春日和の苑内をゆつくりと散策するひと時が大好きです。樹上の紅葉が一段落すると、次は地上の紅葉が楽しめます。特に柿や桜の葉には見事な紅葉が現れ、落ち葉一枚のその錦織は、どれも個性溢れる彩りで毎年感動を覚えます。そんな美しい落ち葉を持ち上げて顔を出すと、秋のきのこも、次のように変わります。



雪の綿帽子を被った平茸 (大雪の翌早朝撮影)

美しい真っ白な雪化粧

また、御苑名物の松毬から発生する三種類のきのこ、マツカサタケ、マツカサキノコモドキ、ニセマツカサキノコモドキが同時に観察出来る貴重なシーズンです。その他にも、傘の裏



大晦日晴天下の天然平茸 (大雪の5日後撮影)

また、御苑名物の松毬から発生する三種類のきのこ、マツカサタケ、マツカサキノコモドキ、ニセマツカサキノコモドキが同時に観察出来る貴重なシーズンです。その他にも、傘の裏

京都御苑 冬のきのこ 茸一期一会、佐野 修治

「冬」です。鳥達は私たちの表情からこちらの気持ちを探る能力も持っているかも知れません。きつと笑顔で接すれば、笑顔で返ってきます。

(京都自然観察学習会)

さまざま冬鳥と出会える季節、鳥たちが何を話しているのか興味がいけません。彼らの言葉が解ればさぞ楽しくなるのと思いませんか。そのための第一歩としてそれぞれの個性を知ることが大切です。

SMILE (いつも笑顔)

「冬」です。鳥達は私たちの表情からこちらの気持ちを探る能力も持っているかも知れません。きつと笑顔で接すれば、笑顔で返ってきます。

(京都自然観察学習会)

さまざま冬鳥と出会える季節、鳥たちが何を話しているのか興味がいけません。彼らの言葉が解ればさぞ楽しくなるのと思いませんか。そのための第一歩としてそれぞれの個性を知ることが大切です。

SMILE (いつも笑顔)

「冬」です。鳥達は私たちの表情からこちらの気持ちを探る能力も持っているかも知れません。きつと笑顔で接すれば、笑顔で返ってきます。

(京都自然観察学習会)

京都御苑は生物すべて採集禁止です。
【とって良いのは写真だけ！】のこして良いのは足跡だけ！
「京都御苑きのこ会」...
毎月一回開催 (顕微鏡観察会年数回開催)
参加費無料
京都御苑きのこ会HP
<http://www.geocities.jp/gyoenkinokukai/>

催 事 案 内

■平成22年京都御苑自然教室

一般の方を対象とした自然教室の今後の予定は、下記のとおりです。都市の中で貴重な緑をもつ御苑で、冬の自然を観察しましょう。

冬の自然教室“冬の御苑にふれよう”

平成23年1月15日(土) 9:30~12:00

主 催 環境省京都御苑管理事務所 TEL.075(211)6348
勸国民公園協会 京都御苑 TEL.075(211)6364

講 師 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。
内 容 冬の御苑にはどんな草花やキノコがあり、どんな虫や鳥たちが生活しているか観察します。

集 合 場 所 京都御苑 閑院宮邸跡前 (京都御苑南西角 間之町口)

受 付 時 間 当日 9:00~9:20

参 加 費 無料

そ の 他 筆記用具をご持参下さい。
手持ちのルーペ、双眼鏡、
図鑑などの観察用具があると便利です。

*以降も春、夏、秋と四季折々、自然教室を予定しています



御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
サザンカ	11月~2月	乾御門から今出川御門に抜ける散策道周辺
ウメ	2月中旬~3月中旬	梅林
ヤブツバキ	2月~4月	近衛池周辺、母と子の森、白雲神社周辺

会 員 募 集

1. 会員の種類 (会費の会計年度は1月から12月まで)

- ①賛助会員(法人) 年会費 10,000円以上
- ②普通会員(個人) 年会費 1,000円以上

2. 会員への特典

- ①葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)
- ②本会発行物をそのつど送付します。

3. 申し込み、問い合わせ先

勸国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL.075(211)6364



菅原院天満宮神社

近隣の神社
菅原院天満宮神社
宇佐美伸二

菅原院天満宮神社は、平安時代に菅原氏の邸宅である菅原院があった場所に建てられた神社である。菅原院とは、桓武天皇に仕へて侍読となった菅原朝臣(七七〇~八四二)、そして文徳天皇、清和天皇に仕えた菅原道真公の父是善卿(八一二~八八〇)が住まわれた邸宅のことで、清少納言の枕草子にも詠まれた家である。そして、この菅原院で、学問の神様として知られる菅原道真公(八四五~九〇三)がお生まれになり育たれたとされる。美しい梅の花



天満宮御遺愛の灯籠

「梅の紅色ってなんて美しいのだろう。ぼくの顔にもつけてみたいなあ。」
菅原道真公の幼名を阿呼(あこ)といい、五歳の時、菅原院の庭に咲き誇る梅の花を眺めて、このように詠まれたと伝わる。
菅原道真公の没後、その菩提を弔うために菅原院の地に歓喜光寺が建立され、境内には道真と父祖の小祠が祀られた。その歓喜光寺はその後六条河原院へ移るが、その小祠は残されて菅原院天満宮神社として現在に至っている。

当時の境内は広く、拾芥抄には菅原院は勸解由小路(下立売通)鳥丸の西一町(室町迄)と記され、また京城の古圖には鳥丸、西室町下立賣、南榎木町の間の石碑が、往時の大邸宅の跡を示している。



菅公御産湯の井

今夏、屋根の葺き替え工事を終えた南向きの本殿には、ご祭神として菅原道真公、菅原是善卿、菅原清公卿が祀られている。

また、次の二つの文献から、菅原院天満宮神社は、北野天満宮の御旅所だったことがわかる。
北野神輿が入浴中は御門室町にとどまる
二代要記 文永六年(一二六九年)正月十日条
一代要記:後宇多天皇の時代(在位一二七四~一二八六)に成立したとされる歴史書

「菅公御産湯の井」が本殿の東側に当時のままだり、現在に至って「外寸百十センチ角・深さ約九メートル・現在は湧いていない」という二〇一〇年「菅公御産湯の井」(道真遺愛の石灯籠)も本殿の西側に残されている。また、末社には癒やられるものにご利益があるという梅丸大神がある。明治時代に、「聖跡二十五霊社巡拝双六」という天満宮めぐりの双六があった。北海道の名付け親でも知られる北方探検家、松浦武四郎という人が、菅原道真公ゆかりの二十五箇所の天満宮を上がり、北野天満宮として双六形式にしたもので、菅原院天満宮神社は、その聖跡第一番の地である。

生物多様性について春号と夏号の二回にわたって掲載してきましたが、最終回は十月十八日(二十九日)にかけて愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第十回締約国会議(COP10)についてです。COP10では、一九三〇年代の代表が、生物多様性に関する国際的な枠組みの策定に向け話し合いを行いました。また、今年には第六回締約国会議(COP6+10)として、二〇一〇年「生物多様性の損失速度を顕著に減少させる」という二〇一〇年目標の目標年でもあり、これまでの取組を評価し、以降の目標を

決める節目の年でもありました。協議の結果、生物遺産資源の利用を定める「名古屋議定書」と生態系保全の世界的目標「愛知ターゲット」が採択されました。名古屋議定書では、生物遺産資源を利用する場合事前に原産国の同意を得ること、生物遺産資源の不正取得を審査する機関の設置を義務化することなど生物資源の利益を先進国と途上国が分け合う国際ルールを定めました。また、愛知ターゲットでは二〇一〇年までに陸の一七%、海の一〇%に保護区を拡大すること、生物の生息地が損失する速度を半減することなど二十項目が盛り込まれました。各国は今後この目標に沿った生態系保全の取り組みを進めていくこととなります。

もちろん国家的な働き以外にも、私たちが生物多様性を守るためにできるアクションがあります。①まずは身近な自然や生きものにふれてみる、②動物や植物を守るための活動に参加する、③生物多様性について周りの人と語りあい、伝えるです(地球生きもの委員会)。みなさんでもできることから始めて、地球のいのちを未来につなげていきましょう。(京都御苑管理事務所 庭園科)

生物多様性 (3) COP10開催

山本 昌世

北野の祭に枇杷を神輿に献じる行事は、昭和初年に西ノ京に御旅所ができるまで続いた。なお、現在の例祭は、七月二十五日に行なわれる。

北野祭日、神氏来此所、取枇杷供神云云
「拾芥抄」
拾芥抄:中世日本で出された百科事典



冬に咲く梅